

乳幼児(0歳～6歳まで)の事故

乳幼児は、自分で自分を守ることができません。従って、そばにいる大人が、子供の事故に対する正しい認識を持って、事故を起さないための予防を普段から心がけることが大切です。

乳幼児の事故は、交通事故よりも家庭内で起こる割合が多いという傾向にあります。家庭内での事故を具体的に挙げると、転倒・転落、誤飲・誤嚥、火傷及び溺水などさまざまな例があります。

1. 転倒・転落

子どもは、成長するにつれて、転倒・転落の危険度が上がってきます。

特に1歳前後は、身体と比較すると頭が大きく重たいため、転倒・転落しやすくなり、家具やテーブルなどの角張った所にぶつけ、ケガをする事がよくあります。

また、こうした事故は、大人が目を離したわずかな時間で起きています。家庭内では、子供から目を離さず、何にでも興味を示す子供の特徴を理解して、普段から十分注意を払いましょう。



2. 誤飲・誤嚥

誤飲・誤嚥は、0歳から2歳までの子供に最も多く、この頃になると小さいものが掴めるようになることと、危険という概念がないことが原因と考えられます。

親が目を離した隙に乳幼児は、たばこ・薬品・コイン・電池・ボタンなど、目にはいるものには何でも手を伸ばし口に入れてしまいます。

※乳幼児は、トイレtpーパーの芯(39mm)を通る大きさのものなら、口の中に入れてしまい飲み込む危険性があります。



3. 火傷

乳幼児は、自分で動けるようになることで行動範囲が広がります。昨日まで届かなかった所に、あっという間に手が届くようになり沸騰したお湯をひっくりかえしたり、熱い味噌汁やカップラーメンをこぼしたり、熱いお風呂に落ちたり、アイロンに触れたりと大人が少し目を離した隙に事故が起きています。

また、見落としがちなのが低温やけどです。子どもの皮膚は、大人の皮膚に比べて薄いため、低い温度でより早く深い熱傷になりやすいです。湯たんぽやカイロなどのそれほど熱くないものでも、同じ場所に長時間触れていると重症のやけどを起こすことがあるので注意が必要です。



4. 溺水

子供は何にでも興味を示し、風呂場・トイレ・洗濯機の中も覗きたくなります。

浴槽の高さが、70cm以下では浴槽内に転落しやすく、また、お母さんの洗髪中や少し先に風呂から上がった場合も溺水事故が発生しています。頭が大きく不安定な乳幼児は、たった洗面器一杯の水に、頭から落ちて溺れることもあるので十分に注意してください。

